情 報 公 開 文 書

研究の名称	妊娠中ビタミンD摂取が出生した子どものアレルギー疾患発症に及ぼす影響に関する研究(エコチル調査のデータ解析より)
整理番号	R2020029
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学
研究責任者	富山大学 学術研究部医学系・小児科学講座・教授 足立 雄一
研究の概要	<p>【研究対象者】 エコチル調査に参加され、妊娠期からお子さんが3歳時までの質問票に回答して下さった全参加者</p> <p>【研究の目的・意義】 ビタミンDは、骨への影響ばかりでなく、アレルギー疾患をはじめとする多くの病気の発症や増悪に関与することが明らかになってきています。欧米を中心とした研究では、妊娠中のビタミンD摂取が少ないと出生した子どものアレルギー疾患（喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど）が多くなるとの報告がありますが、ビタミンD濃度は日光への暴露や食事内容などによって大きく左右され、地理的ならびに文化的に欧米と大きく異なる我が国においての情報がほとんどない状況です。エコチル調査は10万人を対象とした調査であり、この研究により、妊娠中のビタミンD摂取状況が生まれた子どもの1歳時、2歳時、3歳時のアレルギー疾患発症との関係について信頼性の高い結果を得ることができます。</p> <p>【研究の方法】 エコチル調査で実施した妊娠期女性を対象とした登録時(妊娠時)と妊娠中期、分娩時に実施した質問票調査、対象者のパートナーに実施した登録時(妊娠時)の質問票調査により、妊娠中のビタミンD摂取および関連する要因についての情報を得ます。また、評価項目である1歳時、2歳時、3歳時のアレルギー疾患については同時期の質問票から評価し、分娩時、分娩後1か月の児の診察記録を転記した調査票や児が1か月時、6か月時、1.5歳時、2.5歳時の質問票調査からアレルギー疾患の発症に関与しうる因子についての情報を得ます。上記の各質問票、調査票から得られるデータを用いて解析します。</p> <p>【研究期間】 2020年(令和2年)5月11日～2023年(令和5年)3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 利用する情報からお名前、住所など、参加者を直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌、エコチル調査専用のホームページ、シンポジウム、広報誌、テレビ、ラジオなど様々なメディアで発表されますが、その際も参加者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	妊娠中のビタミンD摂取量、出生児が1歳、2歳、3歳時点でのアレルギー疾患の存在、妊娠中のビタミンD濃度に関与する因子や児のアレルギー疾患発症に関与する因子を本学にて解析します。また、他機関への情報提供はありません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	研究責任者 富山大学 学術研究部医学系・小児科学講座・教授 足立 雄一
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)	研究責任者 富山大学 学術研究部医学系・小児科学講座・教授 足立 雄一
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>TEL:076-434-7277 FAX:076-434-5023 E-MAIL aktsuchi@med.u-toyama.ac.jp 富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 土田 暁子・助教</p>